

集まろう！ 集いの場

問 高齢介護課 ☎51-6720

自主的に健康づくり、介護予防の取り組みや地域貢献活動をしている「集いの場」を紹介します。

かみたい

上平町内会「上平カフェ」

(代表：新藤 潤一 さん)

活動場所 上平集会所

開催日 毎月第3土曜日の午前中

活動内容 お話し、ゲーム、季節の催し



ボードゲーム

ボッチャ

代表の新藤さんの声

これといった内容を決めず、皆さんが楽しめるような内容で活動しています。小さいお子さんから、ご高齢の方まで参加されています。

「なんか寂しいな」と感じている人の居場所になったらいいな、と思っています。

「行ってみたいな」と思う方がいたらご連絡ください。



上平カフェでは、ボードゲームやボッチャなどを楽んでいます。この活動が世代間交流やフレイルの予防にもつながっています。

「上平カフェ」やお近くの集いの場に行ってみたい人、集いの場を始めたい人は高齢介護課までお問い合わせください。

5 ジェンダー平等を
実現しよう



すべてのひとが輝くまちの実現をめざして

問 総務課 ☎51-6702

男女共同参画 上十三・十和田湖広域定住自立圏事業 講演会 「男女共同参画」を知る を開催しました



12月20日、上十三・十和田湖広域定住自立圏事業講演会として、「『男女共同参画』を知る」を開催しました。講師の秋田大学の和泉浩教授は、男女共同参画の基本的なこととして、「(すべての人が)人として平等」であること、「現状、どんな男の子、女の子が評価されているのか」という視点から「性別による固定的な役割分担意識」が今の社会には根強く残っていることなどをさまざまな調査結果などをもとに話し、「男女共同参画には時間がかかります。何か必要か、何ができるか考えてみてください」と締めくくりました。



和泉 浩 教授

講演後、参加者の皆さんから質問や意見発表がありました



参加者からの質問

職場のやり方について。鳥インフルエンザが流行したときに、1日3交代の勤務が1カ月続いた時があった。その際「夜の10時から3時まで」の枠に「〇〇ちゃん(女性職員)、入らなくていいよ、あとは男性が入るから」と担当者が指示していた。この時、どうすれば良かった？



和泉教授の答え

男女平等が進んでいる社会なら、この場合も単純に「男女平等」で良いかもしれませんが、現状は程遠いです。また、女性が夜間働けないかという、看護師さんなど夜間も働く女性もいらっやいます。そこで、実際に行うのは難しいかもしれませんが、女性でも夜間勤務の対応が可能であるか、男性でも夜間勤務の対応が不可能か、性別ではなく「個々の状況」で判断できれば良いのだと思います。



参加者からの質問

女性は管理職に向いていないと思う。結婚・出産で長期休暇を取ると重要な仕事は任せられないので、女性の昇進は難しく、給与の差などもそのあたりからくるのでは。たとえ能力があっても、性による生活の仕方が男性とでは違って、例えば、子どもが病気をしたら「寄り添ってあげたい」と強く思うのは母親だと思う。



和泉教授の答え

人によって違うと思いますが、出産による休暇でどのくらい休みますか。子どもの数も昔と違ってそんなに多くないですし、育児をどちらが担うかでも休む期間は違ってきます。それに、子どもに何かあったとき「父親は何も思わない」ですか？

男性も育児を担うことによって、女性が仕事から離れる期間は短くて済みます。また、男性も心身の病で長期間休むことがありますので実際の状況も踏まえて判断したいです。



参加者の感想

夫の畳んだ洗濯物をつい畳み直したくなってしまいました。
「任せる勇気」が必要だと思った。

市は「仕事を頑張りたい」人も「子どもや家族に寄り添いたい」人も、それぞれその人らしく生きられるようなまちづくりに取り組んでいきます。